

住民の思いをかたちに

さらさらに住みよい町へ

そこに暮らす人が
「住んで良かった」と実感できる町。

そのような町づくりに向けて、しっかりと住民生活を支え、住民が安心して働ける環境をつくるのが役場の仕事。

これからの時代を展望し、伯耆町に何が不足しているのか、住民のみなさんと一緒に考え、実行していきたい。



町長インタビュー

伯耆町の新しい町長に森安保氏が就任しました。

旧溝口・岸本両町が合併してから4年が経ち、合併・融和から新たなステップアップを図る伯耆町の舵取りを担う森安町長にお話を聞きました。

町民の皆様にご挨拶を申し上げます。

この度、伯耆町長に就任させていただきました。森安保です。今回の伯耆町長選挙では、無投票で当選させていただきました。与えられた責任の重さに身の引き締まる思いです。そのことを重く受け止め2代目の町長として、前町長が築かれた合併後の町の基盤を受け継ぎ、時代の変化に対応した行政サービスを考え、いくことが私の使命と考えています。

4年前に旧溝口・岸本両町が合併して伯耆町が誕生しました。前町長は合併の機運を盛り上げ、町民の融和を図るために努力してこられました。区長協議会の一本化や特産品開発のネットワークづくりなどの取り組みによって、これからのより良いまちづくりに集中できる環境を整えていただきました。

しかし、時代の変化とともに行政も従前のやり方が通用しなくなっており、地域と住民のニーズに応えるためには、時代の変化に伴う手法の転換が必要です。今はそのシステムを変える時期であり、町政に経営感覚を取り入れ、これまでの慣習にとらわれず、原点に戻って考え直していきたいと思えます。

4つの目標を掲げより住みよい伯耆町を

伯耆町は、周囲から住みやすいイメージを持たれています。私は次のような目標を掲げ、この地域の強みをさらにアップしたいと考えています。

・ 行財政改革を断行し、町政のスリム化、職員意識改革に努め、より筋肉質な体制強化を目指します。

・ 教育、子育て環境を整備して安心な暮らしを実現します。

・ 環境整備を図り、エコに対する住民の取り組みを支援します。

・ 地場産業の振興、商工会の活動などを支援し、「農商工連携」にも力を入れ元気にします。

行財政改革の推進

合併に際しては特別職や議員定数、人件費など過渡的に余剰が生じますが、旧態依然としたやり方では住民のコンセンサスは得られません。見直すところは見直し、職員一人一人がさらにスキルアップを図るなどして、住民の期待に応える行政サービスを目指します。

住民の思いをまちづくりに

住民参画のまちづくりを行うためには、役場が住民にとって身近な存在で、身近なサポートができれば意味がありません。最小の投資で最大の効果を得る取り組みをしたいと思えます。

また、役場から遠い方の声にもしっかりと耳を傾ける仕組みが必要だと考えています。例えば投資的事業に町民意見を求め

るようなシステムなどを検討し、住民の思いを形にする協働と住民参加のまちづくりを目指します。

役割を分担し連携

身近な福祉や生活環境の整備は町が率先して行い、産業振興の面では町と県が役割を分担した方がいい。また、企業誘致やインフラなどの基盤整備、雇用の拡大など大掛かりな部分は県が取り組み、町が協力する形が望ましいと思えます。

住民生活を支え、住民が安心して働ける環境をつくるのが役場の仕事と考えます。これからの時代を展望し、伯耆町に何が不足しているのか、住民のみなさんと一緒に考え、実行していきたいと思えます。



森安保町長略歴

伯耆町小野出身。鳥取大学農学部卒業後鳥取県庁入り。農業改良普及員、企画部地域自立戦略課長を経て、2007年5月から商工労働部市場開拓局長。県庁を退職し町長選挙に立候補、無投票当選。1958年2月生まれ。写真は1月30日の初登庁